

第5回食料サミット「BSEを考える」レポート

食卓の安全のために

11月15日(火)、第5回宮城食料サミット「BSEを考える～もっと知りたい。牛肉の安全のこと～」を、JA宮城ビル11階会議室にて開催しました。

医薬品医療機器総合機構の池田正行氏からは、全頭検査の有効性とかけられている予算について問題提起がなされ、世界の食糧事情や途上国のBSE問題に振り向けるべきではないかと発言されました。水間豊氏(東北大名誉教授)からは米国でのBSE検査体制が日本とまったく違うことの紹介、BSEの生前診断法やヤコブ病の治療法の開発が急務などの話題が出されました。河相一成氏(東北大名誉教授)からは牛肉市場の仕組みの問題点、加工食品への危険部位使用の懸念などが報告されました。

意見交換では、「米国の牛肉のリスクが高いにもかかわらず、牛肉輸入禁止を解除するのであれば①加工食品は含まない②月齢20ヶ月以下に限り、リスク部位の完全除去③トレーサビリティ(生産履歴)を含むデータの追跡が遵守されることを条件とす

Report 庄子都(緑・食部会)

る。」「レストランや加工食品の販売所で原産地表示が義務化されていないのが問題点だ。英国のスーパーマーケット経営者のように『消費者が疑問に思うものは売らない』という精神が根付くことを期待する」との話がありました。司会の入間田範子氏(食品の安全行政をすすめる懇談会)が「危険部位除去や食肉汚染防止対策が徹底されることを要望する」と訴えて閉会しました。消費者が情勢を見極め、自分で見切りをつけ、判断することが大事だと思います。



第6回MELON環境市民講座「海拔1mの島国 ツバル」レポート

Report 針生洋介(ストップ温暖化センターみやぎインターン生)

私たちにできること

12月17日(土)、第6回MELON環境市民講座「海拔1mの島国 ツバル」が仙台141ビル5階エルパーク仙台で開催されました。

講師はツバルで精力的に活動している写真家で国際NGO Tuvalu Overview 日本事務局代表の遠藤秀一氏です。温暖化による海面上昇の影響で深刻な被害の出ている島国『ツバル』を題材に温暖化と私たちの普段の生活について講演をいただきました。

講演は「ツバルの人々の生活」、「ツバルで起きている問題」、「私たちにできること」の内容で行われました。最初にツバルの美しい風景やツバルの人々の生活が写真や映像を交えて紹介され、その人々の笑顔にとっても心がひかれました。しかし、この美しいツバルで温暖化による海面上昇の影響で椰子の木が倒れたり、高波や洪水による被害が出ていることは衝撃でした。温暖化によって近い将来ツバルという島国がなくなってしまうという事実はとてもショッキングなことです。

最後に遠藤氏から、温暖化を止めるために私たちがができることを紹介してもらいました。ツバルの映像を通して温暖化防止を訴えかける遠藤氏のお話は、地球環境問題で私たち一人ひとりができることを考えるよい機会になったのではないかと思います。はじめてみませんか?地球のためにできること。



=浸水前= ツバル、フナフチ島(首都)。



=浸水後=
環礁のため内陸から沸き上がった水によって浸水

Photo credit: Greenpeace/Masaki Nakajima
全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより